

東京精密のめざす姿

創業時から受け継ぐ「技術を突き詰め、技術革新を成し遂げる土壌」を継承し、世界中の技術・知恵・情報の融合で「夢のある未来」の実現を目指します

Purpose

パーパス

計測で未来を測り、半導体で未来を創る

精密測定機器事業からスタートした当社グループは、高い計測技術を搭載した精密測定機器を産業界に提供し、半導体製造装置事業においても高度な微細化と3D、高効率化への対応に計測技術を活かしてきました。「計測事業を持つ唯一の半導体製造装置メーカー」という特徴は、当社グループの強みの源泉となっています。

ビジョン

東京精密グループは“夢のある未来”を築く一員であり続けます。

ミッション

- 世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1 の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく
- WIN-WINの仕事で世界No.1 の商品を創ろう

バリュー

お客さま、株主の皆さま、サプライヤーさま、従業員、地域社会、国際社会など全てのステークホルダーとの間でWIN-WINの関係を創りあげ、持続可能な社会の実現に向け積極的に役割を果たすとともに、企業価値の向上に努めます。

企業
文化

技術を突き詰め、
技術革新を成し遂げる土壌

コア
技術

精密に測る力



コーポレートブランド

ACCRETECH (アクレーテク)

“Accrete (共生)”と“Technology (技術)”の合成語で、Grow Together を意味しています。シンボルマークには、企業理念「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1 の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」が表現されています。

東京精密のDNAと使命

最高峰の技術を提供し、世界一のモノづくりを実現する

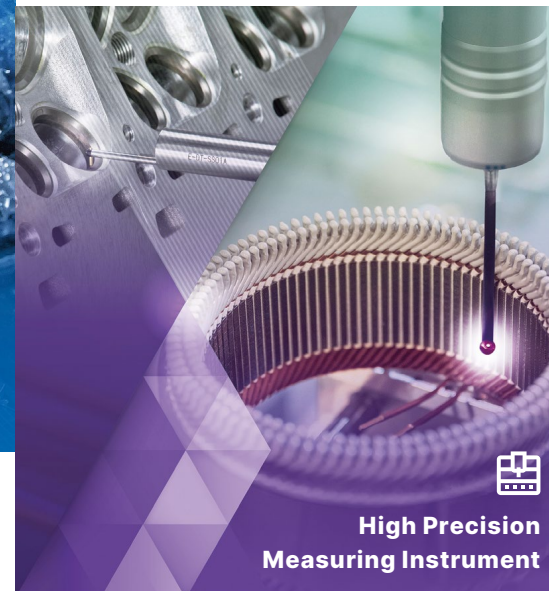
「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」

WIN-WIN RELATIONSHIPS CREATE THE WORLD'S No.1 PRODUCTS

私たちの使命は、お客さまと共に成長を続けながら世界一のモノづくりを実現することです。

次世代製品の実現とそれを市場に提供するためには、ブレイクスルーを起こす技術が必要です。

創業当初から70年以上にわたり培ってきた世界トップレベルの技術力を活かした精密測定機器と半導体製造装置を世に送り出し、お客さまのモノづくりに新たな可能性を提供しています。



“測れないものは、
つukれない”

全てのモノづくりは「測る」というプロセスなしにはできません。当社は「測れないものは、つukれない。」という考えを基本に、あらゆるものを超高精度に、高速に測る技術で世界中の産業界の発展を支えています。

また、この精密に測る力は半導体の高性能・微細化といった進化の支えにつながっています。

私たちは時代の最先端を支えることで、人々の豊かな暮らしと新たな未来に貢献しています。

東京精密のあゆみ

東京精密のコア技術である「精密に測る力」は、東京精密のあゆみの中でさまざまな革新をもたらしてきました。

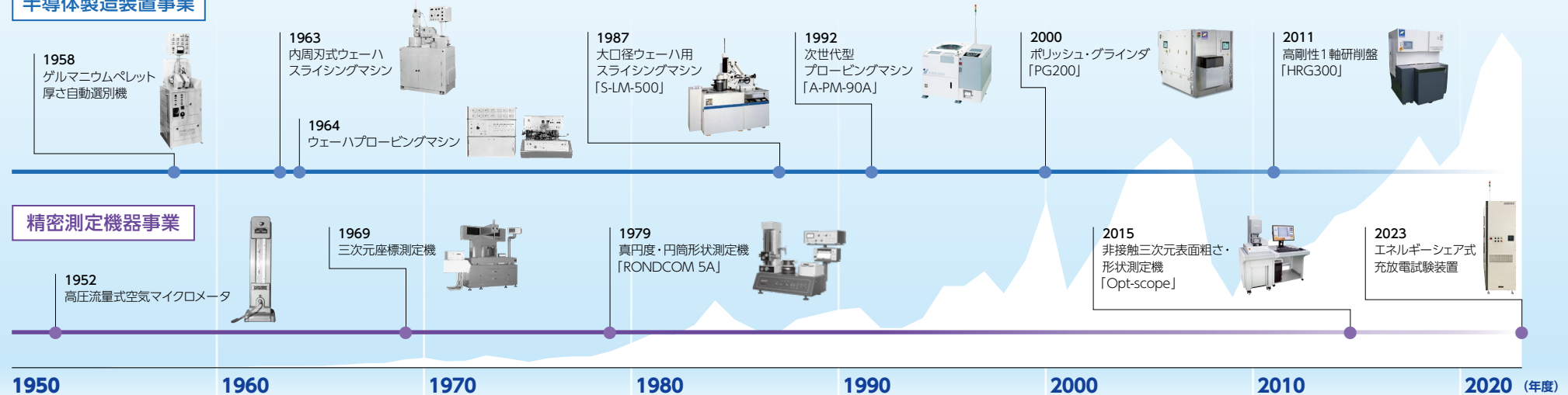
これからもコア技術を磨いて付加価値を追い求め、お客さまや社会のニーズ・課題解決に向けて、さまざまな可能性にチャレンジしていきます。

成長の軌跡 技術革新へのチャレンジ精神で、世界のモノづくりの進化を支える

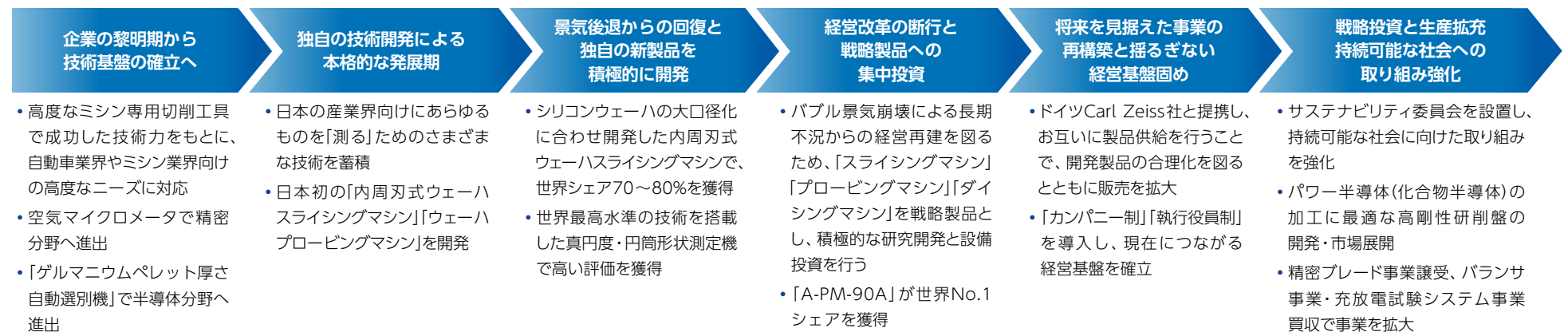
2023年度 売上高

1,347億円

半導体製造装置事業



東京精密の進化



CEOメッセージ



代表取締役会長CEO
吉田 均

未来を創り、 社会を豊かにするために

社会を、より豊かにすること。当社グループの存在価値はこの一点に尽きます。もちろんメーカーですので、主には製品を通じた貢献ということになります。当社グループが手掛ける精密測定機器と半導体製造装置はどちらも世の中の基盤を支えるなくてはならない製品で、共に豊かな未来へとつながるものです。その過程で、当社グループならではの存在価値を示したい。「計測で未来を測り、半導体で未来を創る」という当社グループのパーパスには、このような我々の思いが込められています。

そして、パーパスを補完し実現への筋道を示すのが、「ビジョン」「ミッション」「バリュー」、そして「全てのステークホルダーとの間でWIN-WINの関係を創りあげ、持続可能な社会の実現に向け積極的に役割を果たす」ことなどをうたった「サステナビリティ基本方針」です。2021年に設立した「サステナビリティ委員会」がその実行主体で、各事業体のトップも委員に加わって一連の理念を個別の企業活動へと落とし込んでいます。CO₂削減に貢献できる製品開発や、そこをアピールできる営業活動などさまざまな形で活動は実を結びつつあり、グループ従業員のサステナビリティへの理解も深まってきました。

CEOメッセージ

／ 環境

実態を数値で把握することが大切

一方では、ESGに対する具体的な取り組みも進みつつあります。

環境面では、「2050年カーボンニュートラル」を目指します。CO₂排出量を2050年までに実質ゼロとする国の取り組みに賛同するものです。現在、当社グループではCO₂排出量削減のさまざまな取り組みを進めています。半導体製造装置事業では製品ごとに、原単位ベースで2030年までに35～50%（2018年対比）を削減するという目標を設定。2023年度には8割以上の製品で目標を達成できました。精密測定機器事業でも現在、目標設定を進めています。新たに飯能工場を立ち上げたため、トータルの電力消費量やCO₂排出量自体は増えましたが、グリーンエネルギーへの切り替えなどをさらに進め、2030年のCO₂排出量半減（2018年対比）を目指していきます。

また、当社グループ製品を動かした際に発生するCO₂についても、定量化した上で削減を目指しています。半導体製造装置で言えば、グライндаでウェーハ1枚を加工する際に発生するCO₂の量を測定し削減目標を立てた例が代表的です。精密測定機器では、EV（電気自動車）化によるカーボンニュートラルへの貢献を目指しており、その“一番手”が二次電池の充放電試験システム。電池の性能向上に貢献するだけでなく、試験の対象である電池を試験に使う電気の蓄電池としても活用し消費電力を減らす、独自の「エネルギーシェア方式」を開発し、最大30%（当社比）の省エネルギーを実現しました。

CO₂排出量削減は、世の中を見ても真っ先に取り組むべき全人類的な課題です。私も、経営における重要なリスクと認識しています。いずれにせよ実態を数値で把握することが大切で、今後の製品開発でも、CO₂排出量は当社経営陣のデザインレビューの重要指標であり続けます。環境リスク対策や、気候変動対応を起点とした新たなビジネス機会の創出にも、必要な投資を行っていきます。

／ 社会

女性の採用と海外からの声の反映が課題

社会面では、ダイバーシティの実現が大きな課題だと考えます。さまざまな価値観や考え方の人がいていろいろな意見があり、それを集約してひとつの方向性を決めていくことが会社にとって大事なのですが、同じような属性の人ばかりだと集約の方向性が歪みます。そこを改善していきたい。

当社は技術の会社ということもあり、どうしても女性がまだまだ少ないです。正社員の女性採用比率20%以上、正社員における女性比率でも10%以上の目標を立てており、折からの採用難もあって求人には苦勞していますが、何とか目標は達成できています。新卒に関しては応募者の女性比率もようやく2～3割まで高まってきており、そろそろ次のステップが必要かと考えているところです。

海外の人材も同様です。現時点で海外現地法人を置いているのが18か国。現地で採用した従業員の意見を吸い上げ、十分反映できるようにしたいと思っています。そこで行っているのが、年1回、海外現地法人の管理職全員を本社に集める管理職研修会です。やはりリアルに顔を合わせると交友関係が深まり、それが仕事にも良い影響を及ぼし始めました。

また、当社グループ事業に関わるサプライヤーに対しては、2023年度には113社を対象に人権デュー・ディリジェンスを実施しました。サプライヤーの皆さんとサステナビリティに対する意識を共有することが目的のひとつで、我々とともに意識を高めていってもらえれば、と思っています。

CEOメッセージ

／ コーポレート・ガバナンス

リスクへの予測と備えを重視

コーポレート・ガバナンス面で気に掛けているのはリスクマネジメントです。全てには対応し切れないにせよ、いかに予測を行いどう備えるのかが問われます。企業として、システムティックに動く必要があります。

一番重視しているのは従業員と家族の命と健康、次が会社としての存続です。サプライヤーへの支援も必要でしょう。現時点では、全従業員の安否確認訓練を実施しつつ、サプライヤーにも迅速に安否を問い合わせる必要な支援を行う準備を整えています。

このほか2023年度には、海外子会社や孫会社のガバナンス強化も行いましたが、まだ課題が全て解決できた訳ではありません。現状では、距離が離れるに従いガバナンスが弱くなっている感があるため、教育指導や監査を強化していきたいと思っています。サステナビリティ意識の浸透も図っており、その一環として環境・人事関連情報など非財務情報の収集・開示を進めつつあるところです。

今後の課題として挙げられるのは、取締役会のダイバーシティでしょうか。将来的には内部昇格により、取締役に占める女性比率を3割に高めたいと思っていますが、まだ管理職になっている女性従業員も多くはなく、簡単なことではありません。先ほども申し上げましたように、女性従業員、女性管理職を増やしていくことが先決だと思っています。

／ 最後に

我々の取り組みをご理解いただく努力を

昨今、お客さまや投資家の方々と接していて、サステナビリティが話題になることが多くなってきました。当社工場にお客さまをご案内しても発電関連の質問は大抵出てきますし、株主・投資家の方々からも、業績や新製品の話と同列で、環境や評価機関のレートに関する質問が聞かれるようになりました。世の中全体がサステナビリティ重視になってきた感があります。

こうした中では、我々のサステナビリティに対する取り組みを積極的にステークホルダーの皆さまにご理解いただくための努力が問われます。本統合報告書もその一環です。具体的な取り組みと成果をご覧になった上で、当社グループへのご理解を一層深めていただければ幸いです。



COOメッセージ

コアとなる要素技術を磨いて 付加価値を追う

エンジニアの“やりたい”という気持ちを大切にしたい、と考えています。エンジニアにはいつも、どれだけ忙しくとも勤務時間のうち10%、5%は自分のやりたい要素技術開発をやるよう伝えています。お金が必要な時には、私の決裁で予算を捻出します。

以前当社に、従来にないグラインダ（研削盤）を作りたい、と提案してきたエンジニアがいました。普通、硬い素材は柔らかい砥石で削るものですが、硬い素材を硬い砥石で削るという常識を覆すようなコンセプトを打ち出してきたのです。どうしてもやらせて欲しい、と頑張るので、予算を工面して本人に半年ほど世界中を周ってもらい、本当に成功するか市場調査をさせました。その結果、「売れます」という回答だったので、予算を付けて製品化もしましたけれども、結果としてその時にはまだ時期尚早でした。しかし、数年後にSiC（炭化ケイ素）基板の加工用ニーズが出てきて非常に売れるようになり、Si（シリコン）基板やハイブリッド・ボンディング*用途でも今や、この技術が当社の優位性を世界中に示しています。常識というのは疑ってみるものです。

何十年と生き残っている会社をみると、どこも確固たるコア技術があり、多少値段が高くとも売れる商品や装置、ソリューションを持っています。半導体製造装置の世界にしても、コア技術のしっかりした装置で、かつそこに付加価値がなければ、安価な外国製の装置に淘汰されてしまうでしょう。だからこそ当社グループは、精密測定機器と半導体製造装置の事業を併せ持つ世界唯一の企業として、コアとなる要素技術に磨きを掛けつつ、半導体デバイスを作りながら測定するという付加価値を追い求めなければなりません。

* 2つ以上の半導体デバイスを、銅製の接続電極などを使わずに直接接続する技術。



代表取締役社長COO
木村 龍一

COOメッセージ

中期経営計画最終年度

新たなニーズに対応し、
半導体製造装置と精密測定機器の融合を推進

こうした考えのもと2022年にスタートした現中期経営計画は、最終年度の3年目を迎えています。連結売上高1,700億円、営業利益375億円、ROE15%という目標を掲げてきましたが、PC、スマホ、家電など民生デバイスの市況低迷が長期化していることにより、2024年半ばの事業環境が年度末まで続くのであれば、達成は難しい状況です。とは言え、中国市場は全般に堅調で、AIやSiCへの需要も高まっています。市場の雰囲気は変わりつつあり、市況の回復次第でこの規模には近い時期に十分到達できると考えています。2023年7月に稼働を始めた飯能工場も順調で、市況回復後に需要を満たせるだけの生産キャパシティは十分にあります。

現中期経営計画の期間中には、半導体製造装置事業と精密測定機器事業の融合を進めました。かつての縦割り組織を改編して互いに双方の技術会議に出席するようにし、顧客ニーズがどこにあるのかをそれぞれの視点を持ち寄って考えられるようにした結果、新たにリリースした装置やその機能という形で融合が結実しつつあります。

一例として挙げられるのが、当社グループで最も売上の大きいプロービングマシン*1に非接触の三次元表面粗さ・形状測定機「Opt-scope」を載せた事例です。従来の針跡検査は2次元での計測しかできませんでしたが、Opt-scopeの搭載により3次元（縦横+深さ）の計測ができるようになりました。同様にOpt-scopeをダイシングマシン*2に搭載することで、ウェーハの加工溝の底面の形状を把握できるようにもなっています。共に半導体製造工程の精度向上に貢献できるもので、半導体製造装置と精密測定機器、双方のコア技術を持つ当社グループならではの製品と言えるでしょう。他にも現在、数本のプロジェクトが進行中です。これらの新製品や販売先の拡充、マーケットシェアの上昇など、半導体製造装置と精密測定機器のシナジー効果による売上を3年以内に連結で130億円程度まで高めたいと思っています。

また、ハイブリッド・ボンディングという新工程の出現に対応できる、新たな装置の開発も進みました。先ほど触れた高剛性研削盤や、ウェーハの表面を研磨・平坦化する「CMP装置」で培った洗浄技術のグラインダへの転用などです。

ハイブリッド・ボンディングの過程で半導体同士を確実に接続するために、ウェーハの厚さをより均一に、平らにする必要性が高まる一方、半導体業界全体で前工程と後工程の境目が曖昧になってきています。例えば、AIに使うロジック半導体やHBM（高帯域幅メモリ）。一度後工程で薄く加工した後に、高レベルの清浄度が求められる前工程に戻す動きが出ており、後工程の装置にも微粒子、特に前工程に入り込んではいけな銅などの重金属を取り除く高い洗浄能力が求められるようになってきています。新開発した装置群は、このニーズを満たし半導体のさらなる高機能化への道を拓くものです。

近年は海外企業も自前の安価な半導体製造装置を市場に投入してきており、新たな付加価値を生み出せねば競争に負けます。お客さまや社内の声を丁寧に拾い、他社にできない、こういうものがあれば便利だ、という機能を実現し続けることが、当社グループが進むべき道だと思っています。

*1：ウェーハの上に形成されたICチップ一つひとつの電極に金属針（プローブ）を正確に当て、通電検査を行うための装置。

*2：ウェーハ上に形成された多数のICなどを、一つひとつのチップに切り出す装置



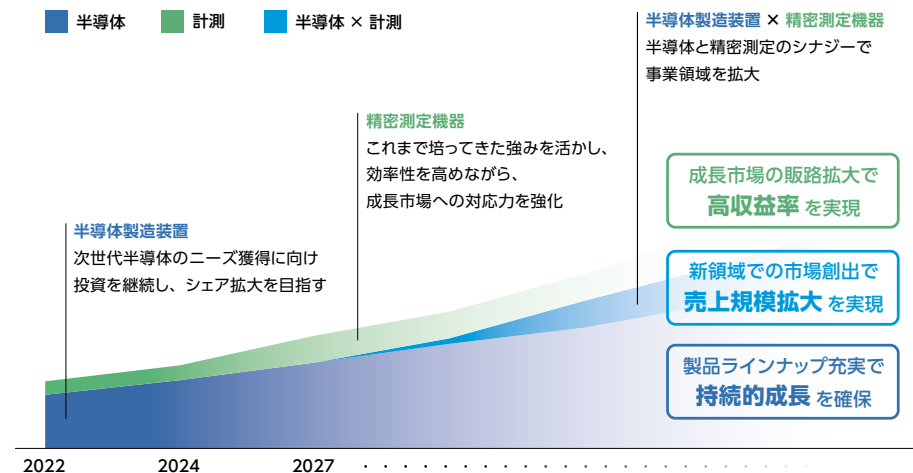
COOメッセージ

中長期ビジョン

「中小企業らしさ」と「やりたい」を実現できる環境」を守る

ここで視点を未来に向けてみます。社会全体がどう変わるかを予想することは困難ですが、どうあろうと半導体は絶対になくなりませんし、むしろIT技術の進展で半導体デバイスが大量に必要となる時代が来るのはこれからです。精密測定機器もモノづくりがある限り必要であり続けます。それゆえ今後も、当社グループが半導体製造装置と精密測定機器を両輪として事業を行っていくことに変わりはありません。

現在の事業ポートフォリオのままで、年間連結売上高2,000億円強までは十分到達できると考えており、シェアの拡大を通じてさらに数百億円は上乗せできる想定です。特に精密測定機器分野には、今後の成長が期待できるNEV（新エネルギー車）バッテリーの充放電試験システム・ソリューション事業があります。今後のNEVの増加と蓄電池需要の拡大は間違いありません。試験装置の開発にとどまらず、最新の情報や技術動向を得るために受託測定事業にも手を広げたいと考えています。



それ以降については、自分たちで全く新しいことを考えることも重要ですが、お客さまから「こういうことはできないか」という声をいただき、その中に込められたエッセンスを見逃さずに事業の応用展開を図る、というイメージを抱いています。本社と海外現地法人のコラボレーションを一層発展させてグループの総合力を最大化し、真の国際企業へと成長していくことも長期の成長には不可欠でしょう。しかしそうして規模が拡大しても、小回りが効いて経営者が全体を見通せる「良い意味での中小企業らしさ」と、エンジニアの「やりたい」を実現できる環境は、今のまま保っていききたい。従業員が「上からの指示に従っていれば良い」と思い始めたら大企業病の始まり、工夫のしどころです。

次期中期経営計画

3年計画で良いのかを検討

このような未来への第一歩が2025年度から始まる次期中期経営計画になりますが、そもそも私は、「中計」という考え方が正しいのかどうか、少し疑問に感じています。当社グループの事業は装置産業であり、景気次第で売上高がかなり上下しますので、3年後にこうなる、ということは現時点では断言できません。良い時もあれば悪い時もあります。そして、中長期的には上がっていく、という世界です。

と言っても、定量目標がなければそれはそれで問題がありますので、中期経営計画自体は残すかも知れませんが、期限の切り方などについては考えなくてはならないと思っています。5年～10年の計画の方が向いているのかも知れません。なお、何をやるかについてはまだ申し上げられませんが、やりたいことは明確にあります。

COOメッセージ

ESGへの取り組み

デバイス作りに貢献することで、社会のお役に

「計測で未来を測り、半導体で未来を創る」というのが、当社グループのパーパスです。この言葉の通り、製品を通じて未来を創る、例えば世の中のCO₂が減るようなパワー半導体デバイスを作る際に役立つことで社会に貢献していくのが、当社グループのESGの在り方だと考えています。

もちろん、環境面では工場ですさまざまな活動を手掛けており、サプライチェーンまでを含んだCO₂排出量の測定も行っています。ただ、我々は電気を多く使って製品を作る企業ではないので、直接CO₂排出量を減らすことで社会に貢献するというのは難しい。パワー半導体の高性能化に貢献する、あるいは化学物質を極力使わずに済む製造装置を提供することが、我々なりにできることです。

社会面では、ダイバーシティの推進に力を入れています。性別・国籍は当社グループでは一切問いません。最近では、海外現地法人の人財を本社に配属し、マネージャーとして日本人スタッフとともに海外営業をマネージングするという取り組みを始めました。海外営業は、肝心なところは言葉のニュアンスまで分かるネイティブの方が有利です。一方で、日本のことも分かるようになるので、5年10年して現地に帰った時にも必ず役に立つ。いずれは、そうした人たちの中から役員が出てくると思います。経営のトップになってくれても全然構いません。

ガバナンス面で現在進めているのは、後進経営層の育成です。候補者十数人に法律や経理に関する外部研修を受けさせるほか、さまざまな部署を経験させて視野を広げるようにしました。経歴や得意・苦手を示した候補者リストは社外取締役が委員を務める指名・報酬委員会に提出し、ご検討いただけるようにしています。

皆さまへのメッセージ

“やりたい”気持ちを大切に

皆の“やりたい”という声を大事にすることが、私が課長時代の30年前から変わらず抱いている信念です。あとは、東京精密という会社を好きであってくれば。皆が会社を好きになれば、そのベクトルはとても強いものになり、会社は必ず良くなります。

ステークホルダーの皆さまに対しても、同じことを考えています。株主・投資家の皆さま、お客さま、お取引先、地域の方々。皆さまの「こういうことがやりたい」という気持ちに応えていきたい、大事にしたい。そして好きになっていただきたい。今後とも、東京精密と未永くお付き合いください。



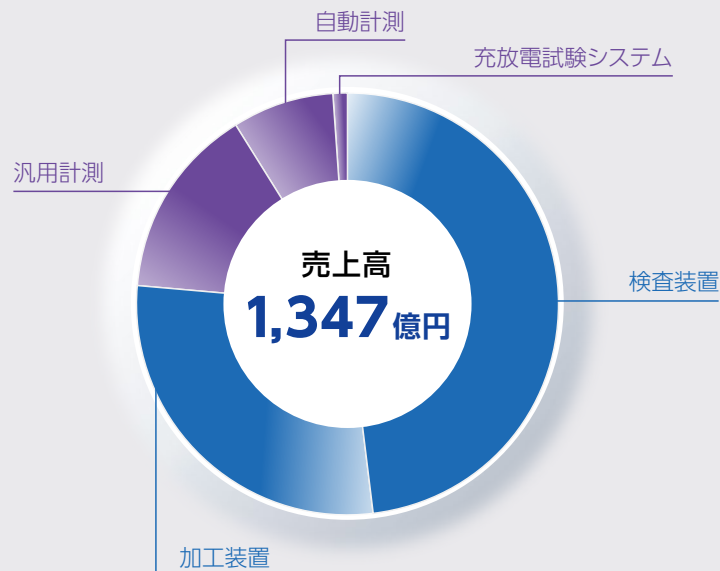
東京精密の事業概要

東京精密は半導体製造装置部門と精密測定機器部門という2つの事業領域により、安定した収益を実現するとともに両事業間のシナジーを高め、計測技術を持つ唯一の半導体製造装置企業として、国内外で高いシェアを獲得しています。

事業ポートフォリオ

精密測定機器

自動車産業・工作機器・航空機器などさまざまな産業において、測定室あるいは機械加工ラインで用いられる高精度精密測定機器を提供しています。また、NEVや再生エネルギーなどの新しい市場ニーズにも対応するため、二次電池の充放電試験システムの開発にも注力しています。

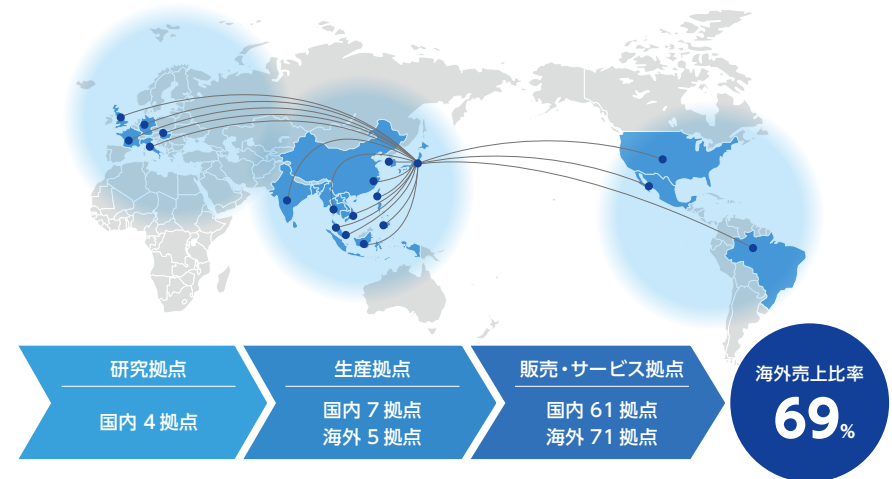


半導体製造プロセスにおいて、ウェーハ製造・加工分野および、テスト・研削・切断などの各工程で半導体製造装置を提供しています。半導体製造工程における、お客さまの最適な生産システム構築をサポートしています。

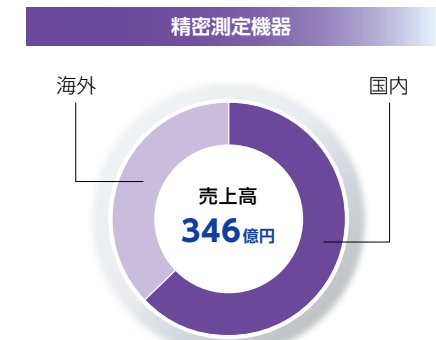
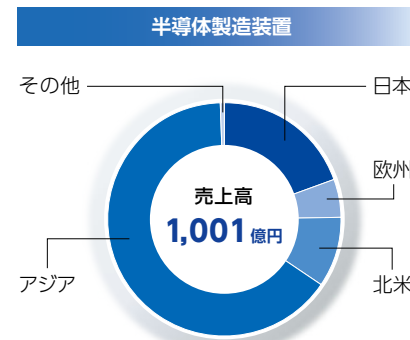
半導体製造装置

グローバルなネットワークで世界最先端のモノづくりを支援

18か国・地域71拠点に展開するグループ会社が、オンサイトで世界最先端のモノづくりを支援しています。迅速かつきめ細かなサポートによって、お客さまからの強固な信頼を獲得しています。



● 地域別売上比



東京精密の製品の特長

半導体製造装置

次世代化など最先端のデバイス製造に欠かせない半導体製造装置

- ・プロービングマシン
- ・エッジグラインダ
- ・ダイシングマシン
- ・剥離洗浄機
- ・高剛性研削盤
- ・ポリッシュ・グラインダ
- ・CMP装置

プロービングマシン
グローバルトップレベルのシェア



精密測定機器

自動車などの生産現場を支え、品質を保証するための
世界最高レベルの高精度・高速・耐環境性精密測定機器

- ・三次元座標測定機
- ・光学式シャフト形状測定機
- ・表面粗さ・輪郭形状測定機
- ・X線CT装置
- ・真円度・円筒形状測定機
- ・充放電試験システム
- ・光学測定機器
- ・マシンコントロールゲージ

三次元座標測定機／表面粗さ・輪郭形状測定機
国内トップシェア



「半導体製造装置事業」と「精密測定機器事業」の技術シナジー

精密測定機器事業の計測技術を半導体製造装置に展開することで、より精度の高い加工や検査を可能にしました。

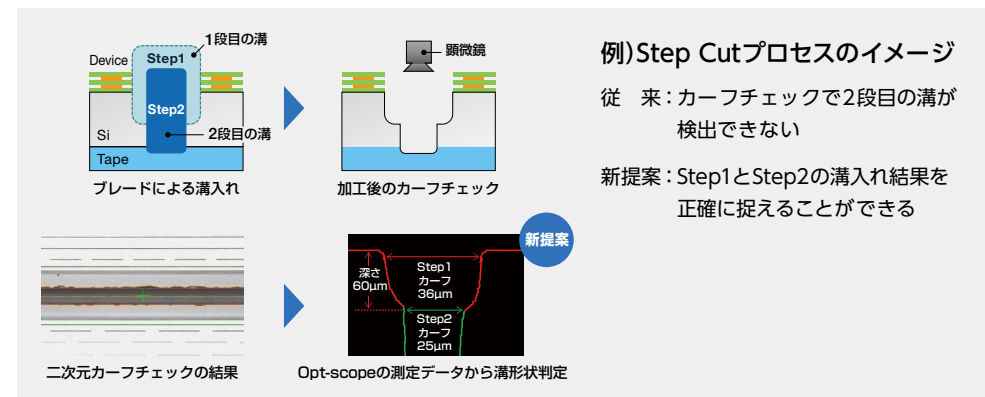
AD3000T-PLUS
Opt-scope built inダイシングマシンに
非接触測定技術を搭載し、
新たな検査機能をサポート

ダイシングマシン ▶
AD3000T-PLUS



▲ 光学測定機器
Opt-scope

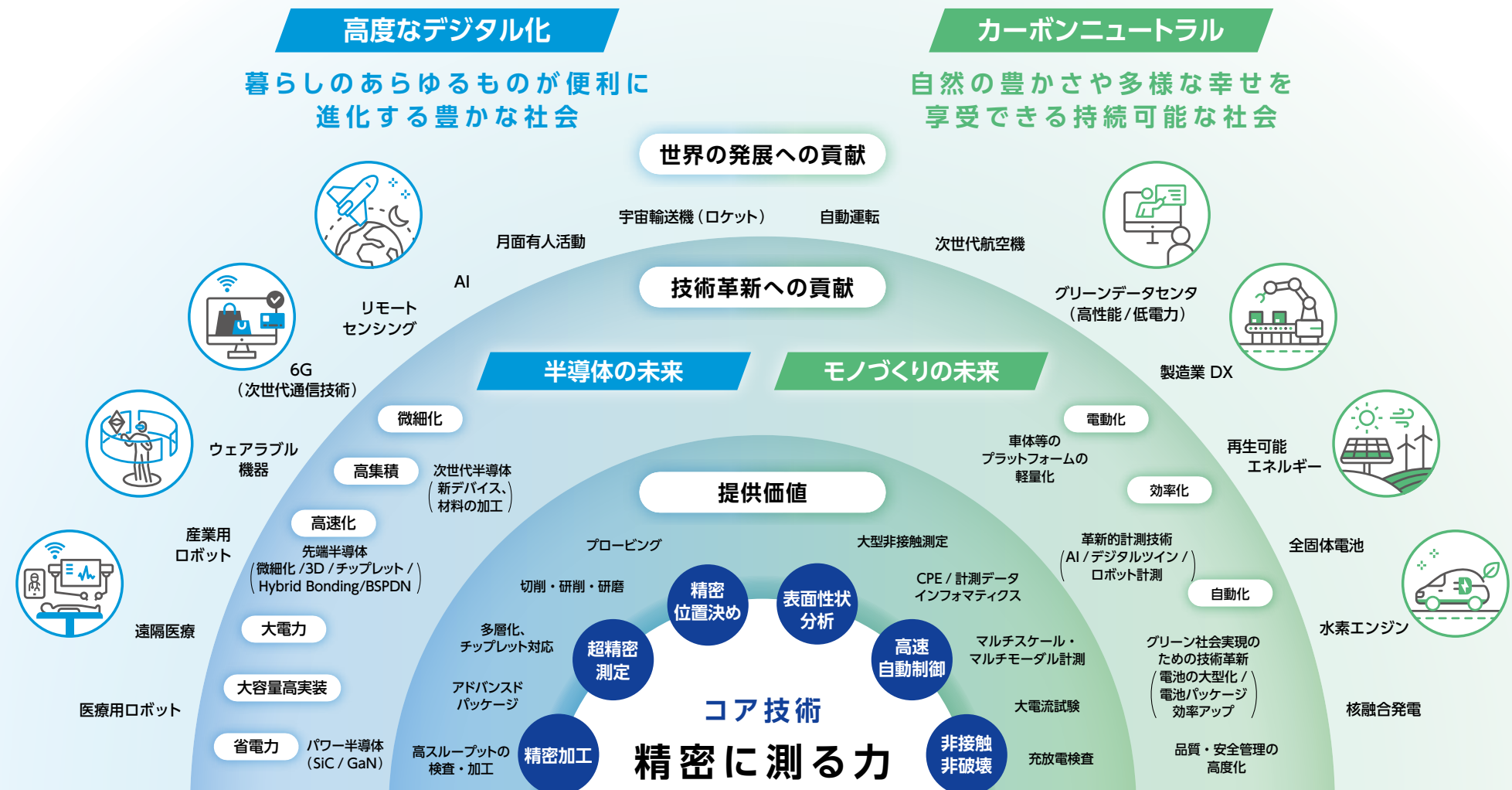
● ダイシングマシンで加工溝形状のプロファイルの測定を実現



東京精密がめざす“夢のある未来”

東京精密グループがめざす夢のある未来は、暮らしのあらゆるものが便利に進化し、自然の豊かさや多様な幸せを享受できる持続可能で豊かな社会であると考えています。この未来を実現するために、2つの事業領域（半導体製造装置・精密測定機器）のベースとなるコア技術にさらなる磨きをかけ、さらに革新した技術を提供し、半導体とモノづくりの未来の実現に貢献していきます。

私たちは世界中のイノベーションをけん引する下支えとなる技術提供を続けていきます。



東京精密グループ長期ビジョン2050

不確実性がかつてなく高い時代において、事業環境の変化に合わせて変わり続けながら成長していくために、東京精密グループのありたい姿であり成長の羅針盤となる「長期ビジョン」を策定しました。ありたい姿を実現するため、将来的にやるべき対応の洗い出しと成長戦略を検討しています。

東京精密グループ長期ビジョン2050

高度な技術力と豊かな創造性で未来体験の未来を切り拓く



革新的な半導体製造プロセスを実現する
最先端の製造装置を開発

次世代デバイス製造に向けた高精度な加工技術

最先端デバイス製造を支える高度な測定技術

前・中・後工程 トータルソリューション

各事業のありたい姿

今後10年で獲得・強化



“モノづくり革新”に欠かせない
精密測定機器・サービスの提供

二次電池関連ビジネスの強化

サイバー・フィジカル・エンジニアリングへの対応

計測・検査サービスの拡大（モノ売り → コト売り）

新規事業創出に向けた研究・開発の強化

“半導体 × 精密測定”のシナジーを活かした製品

新素材・化学に対応する独自技術

産学連携での新領域探索

環境に配慮した製品・素材

経営基盤強化

デジタル技術を活用した事業改革

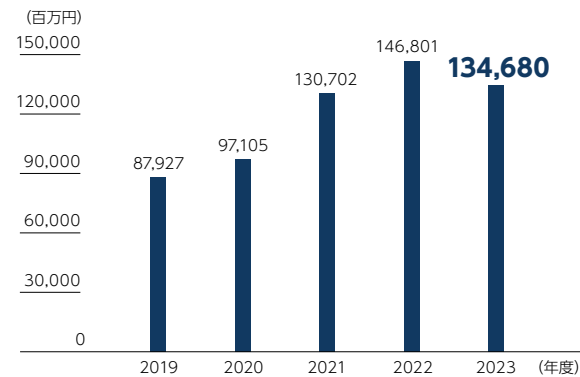
新製品・事業創造に向けたブランドデザインを描く組織体制の構築

変革を支える企業文化の醸成

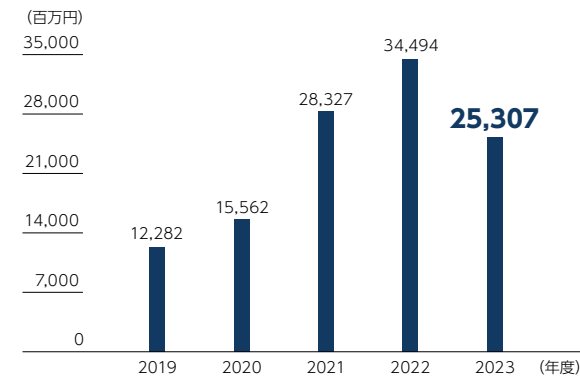
財務／非財務ハイライト

財務

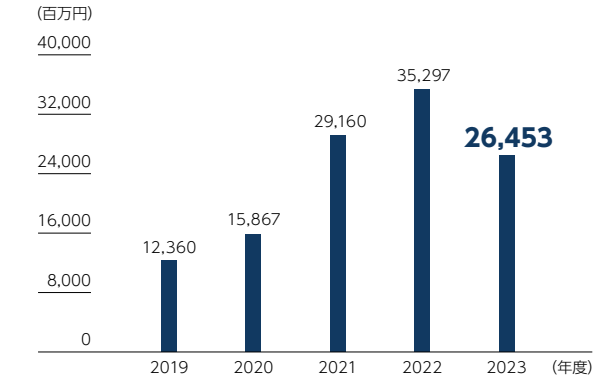
● 売上高



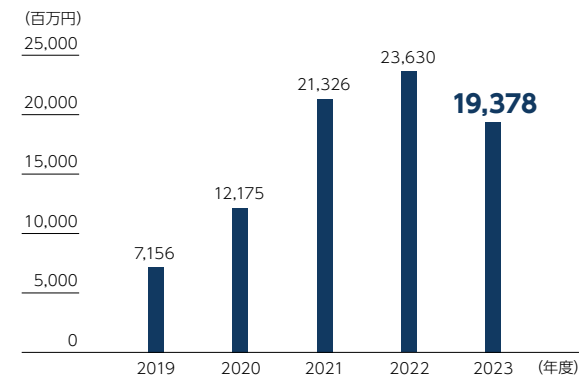
● 営業利益



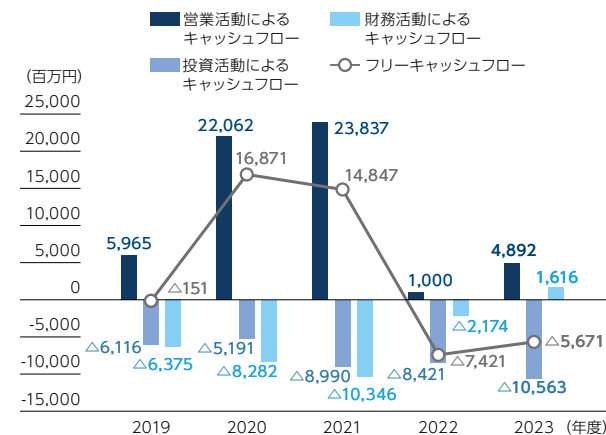
● 経常利益



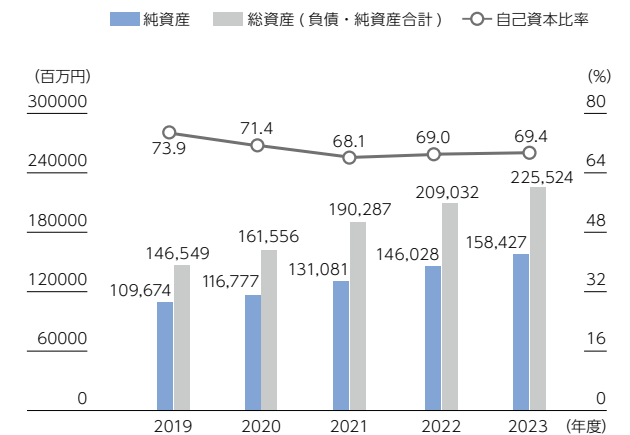
● 純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)



● キャッシュフロー

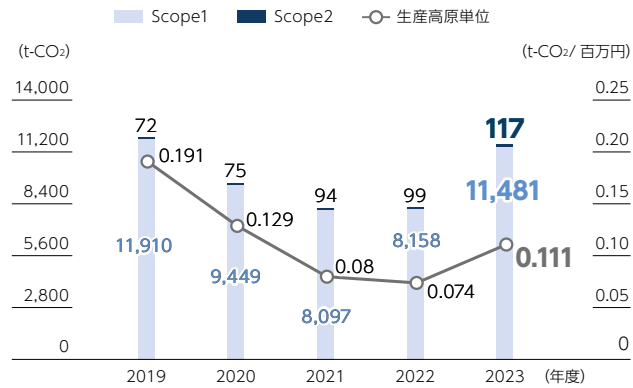


● 貸借対照表



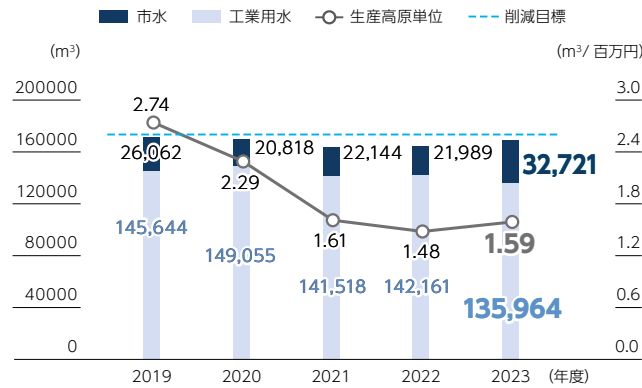
非財務

● CO₂ 排出量



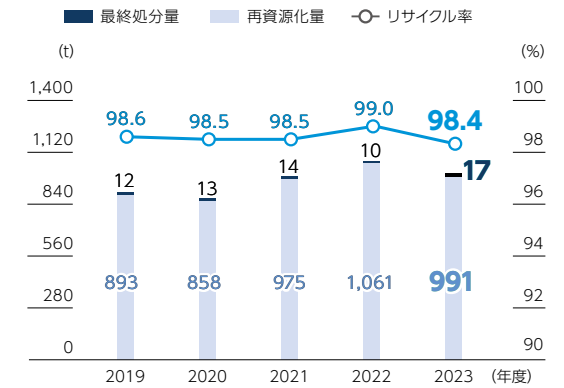
対象範囲：(株)東京精密 八王子工場・飯能工場・土浦工場・古殿工場
2023年度の実績には、飯能工場(新規竣工の7月以降)、古殿工場(事業譲受後の10月以降)のデータが含まれます。

● 取水量



対象範囲：(株)東京精密 八王子工場・飯能工場・土浦工場・古殿工場
2023年度の実績には、飯能工場(新規竣工の7月以降)、古殿工場(事業譲受後の10月以降)のデータが含まれます。

● 廃棄物量とリサイクル率

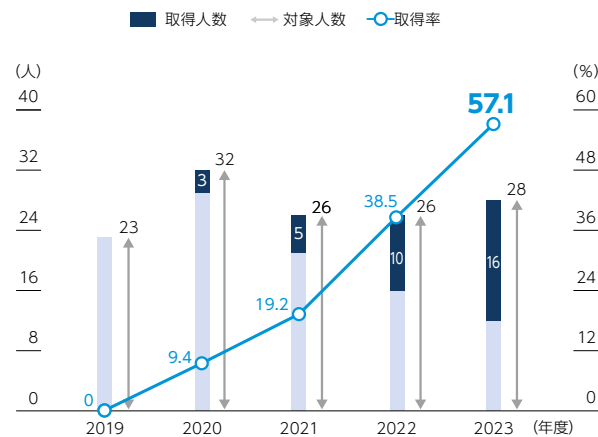


対象範囲：(株)東京精密 八王子工場・飯能工場・土浦工場
2023年度の実績には、飯能工場(新規竣工の7月以降)のデータが含まれます。

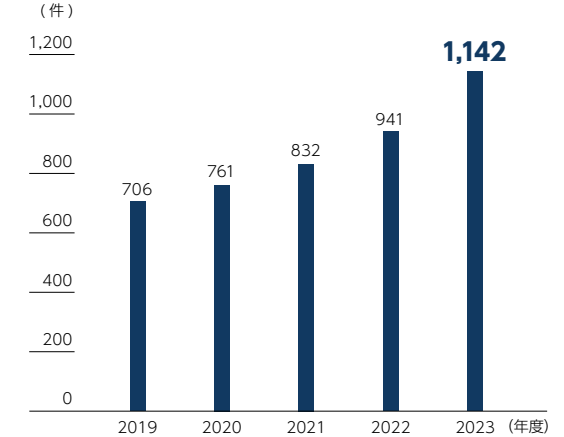
● 女性従業員・女性管理職比率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
管理職女性比率	1.4%	1.5%	1.9%	2.4%	2.1%
役員女性比率	7.7%	7.7%	7.7%	15.4%	16.7%
正社員採用者に占める 女性割合	9.3%	6.1%	17.0%	18.3%	22.1%
正社員に占める 女性割合	6.4%	6.4%	7.4%	8.5%	10.3%

● 男性育児休業取得率



● 特許保有件数



※特許保有件数は各年の12月末日で判定した件数を示しています。